

MS & ADホールディングス 電話会議（2017年10月6日開催） 北米ハリケーン等による損害発生状況に関する質疑応答要旨

2017年10月6日に実施したIR電話会議の質疑応答（要旨）を以下のとおりまとめました。

なお、社名表示は以下の略称を使用しております。

MS：三井住友海上火災保険株式会社

AD：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

MSA生命：三井住友海上あいおい生命株式会社

MSP生命：三井住友海上プライマリー生命株式会社

Q1：ハリケーン・マリアのロスに関して、プエルトリコ関連のロスはどの程度であると想定していますか。プエルトリコの引受は、元受ではなく、再保険中心ですか。また、全体における元受と再保険の構成はどのようなイメージとなるか教えてください。

A1：今回リリースした損害額の計算は、モデルの計算からの推計値に一部の情報を加えて算出した推定値であり、現段階では細分化して開示するほどの確度に乏しいため、内訳については、ご容赦願います。なお、プエルトリコは、元受ではなく再保険に含まれています。全体については、かなりの部分が再保険です。

Q2：損害額の推定についてモデルを使う場合、一般的に修理単価が高騰するなどにより、モデルエラーが大きくなる現象が起きると思いますが、そういったモデルエラーも織り込んでいますか。

A2：今回のリリースに関して、業績へのインパクトが大きいということから、早めに公表することを優先し、かなりの幅を持って公表させていただきました。現時点の情報に基づく推計値ですので、今後、変動する可能性はあります。

Q3：今回の損害額について、3つのハリケーンの損害額の割合が、新聞報道等から推計される割合とは異なっているとの印象を持ちました。異なっている要因として、MS Amlinの再保険の引受方針、引受のレイヤーなどに何か特殊性があるのでしょうか。

A3：子会社毎に情報を集計していることや、それぞれが使っている情報およびモデルの違いにより損害額の見込みに差が出ていることは考えられます。全体のうちMS Amlinの占める割合は6割程度となりますが、現時点では、どこの地域で、どの程度のロスが出ているか、また再保険のどのレイヤーで損害が大きく出ているかを申し上げるのは難しいとご理解ください。

以上